



宇和島を代表する重要文化財

絹本著色豊臣秀吉像

豊臣秀吉といえば、戦国武将を代表する歴史上の人物。そんな人物の肖像画がなぜ宇和島にあるのか？そんな疑問にお答えする形で、重要文化財 豊臣秀吉像のヒミツを紹介します。



絹本著色豊臣秀吉像(公益財団法人宇和島伊達文化保存会蔵)

所有者の変遷

富田一白

秀吉に仕えた側近(家臣)。秀吉の死の翌年慶長4(1599)年に秀吉像を作らせ、死後、息子の富田信高へ託す。

富田信高

関ヶ原の戦いで、勝利した東軍(徳川方)で功績を収めたことにより宇和島藩主となり、宇和島を治めることに。秀吉像を持参して宇和島へ来る。

金剛山正眼院

信高、父一白の菩提を弔うため、宇和島に金剛山正眼院を建てる。秀吉像は金剛山に奉納される。

金剛山大隆寺

5代藩主伊達村候が金剛山を伊達家の菩提寺とし、正眼院から大隆寺と改名する。

宇和島伊達家

幕末に金剛山の住職晦巖から8代藩主伊達宗城に献上される。これ以降、宇和島伊達家に秀吉像が伝わる。



愛媛県指定文化財 富田一白画像(金剛山大隆寺蔵)



伊達村候肖像画(公益財団法人宇和島伊達文化保存会蔵)



伊達宗城肖像写真(公益財団法人宇和島伊達文化保存会蔵)

5年ぶりの重文公開

令和4年度 秋期特別展 重文 豊臣秀吉像 修理後初公開記念「ほどく・なおす・つなぐ」

令和2年度に保存修理事業を終えた「重要文化財 絹本著色豊臣秀吉像」を中心に、文化財を後世に伝える職人たちの技術にスポットをあてた展示をします。秀吉像の公開は5年ぶりとなります。ぜひこの機会にご覧下さい。

日 10月22日(土)～11月21日(月)

場 伊達博物館 (休館日：火曜日※祝日の場合は翌平日)

料 大人500円、65歳以上・高校生・大学生・400円、中学生以下・障がい者無料

問 伊達博物館 ☎22-7776



ID: 0078761

豊臣秀吉像作成に関わったキー・パーソン

描いた人物：狩野光信

織田信長や豊臣秀吉に仕えた安土桃山時代の絵師。秀吉の肖像画を多数描いている。

秀吉を賛じた漢詩を書いた人物：西笑承兌

戦国～江戸時代初期の臨済宗の僧。豊臣秀吉の政治顧問や外交僧の役割を果たす。



西笑承兌(大阪城天守閣蔵)

秀吉像の修理について

宝永元(1704)年

金剛山6代目住職 讓天じょうてんが京都に持ち運び、修理に出した。

このときに秀吉像の裏側に讓天の書が貼られた。そこには讓天の出自が書かれてあり、亡き父が李氏朝鮮王室の末裔で、秀吉が朝鮮出兵をした後に捕虜として九州に連れてこられたことが記され、秀吉との浅からぬ因縁についても綴られていた。

現在、この書は秀吉像本体から取り除かれてしまったが、「太閤画像裏書」として肖像画とともに伝わっている。

大正11(1922)年

皇太子殿下(後の昭和天皇)に見てもらうため、東京麹町坦々堂の表具師 藤間与四郎が秀吉像を仕立て直す。注文したのは宇和島伊達家10代 伊達宗陳。この修理は当初知られていなかったが今回の修理でわかった新たな発見の1つ。修理で秀吉像を解体したときに見つけた軸木むねのぎの書に、そのことが記録されていた。

令和元(2019)年6月～令和3(2021)年3月

絵具の剥落や本紙に使用されている絹の劣化などが目に見えてわかったので、文化庁の指導を受けて修理を行った。修理前に調査や肖像画を解体したことで、下記のことが判明した。

今回の修理工程で分かった新たな発見

- ▶ 解体した肖像画の本紙裏側からも色が塗られていた
- ▶ 解体した軸木の書から大正11年の修理実績が判明
- ▶ 東京文化財研究所の調査により使用された絵具の素材が判明

今回の修理の様子が動画でもご覧になれます



▲短編(8分)



▲長編(22分)